

表. 2 プラグインの種類

xEVがグリッドや建物にプラグインする際の「フレーバー」の違いを認識することは非常に重要だ。RMIでは、それを以下の6つの重要なシナリオに分類した。

V0G Convenience charging: 随時充電	従来の電気器具同様、プラグを差し込むとすぐに、充電を開始する
TC Timed charging: 時間決め充電	予めインストールされたプログラム(あるいは、クリティカルピークのような、電力会社からの片方向の通信)に基づいて、電気料金が安く、グリッドへの負荷が小さい時間帯に充電する
V1G Smart Charging: スマート充電	車はグリッドとリアルタイムで情報交換し、グリッドの都合が良い時間帯に充電する。場合によっては、グリッドに対するアンシラリーサービスを提供し有益を得ることもできる(クリティカルピーク・リベートの意味か?)
V2B Vehicle to Building	グリッドと更新する代わりに、車が、建物のエネルギー制御システムと交信する以外は、次のV2Gと同様
V2G Vehicle to Grid	V1Gのシナリオに加えて、車はバッテリーに蓄えた電気を放出することで、電力貯蔵装置 / バックアップ電源の役割を果たすことができるので、幅広いグリッドサービスが可能となる
V2G NGU	電力会社が、大幅に再生可能エネルギーを活用する次世代公益事業者(NGU: Next Generation Utility)に移行したら実現するV2Gの将来形。より賢く、再生可能エネルギーをうまく使いこなし、効率の良いグリッドが出来上がった暁の、車とグリッドの関係

NGU: RMIが提唱する次世代公益事業者モデル。詳細は<http://ert.rmi.org/research/next-generation-utility.html> 参照